

【概況】<中国の石油精製処理減少・米国原油在庫大幅積み増し>

●10日、需要見通しに警戒感が広がる中、相場は8日には清算値ベースで3カ月半ぶりの安値まで落ち込んだ。この水準では短期間で急速に売られ過ぎたとの見方が広がり、9日以降は安値を狙った買いが優勢。10日もこの流れが継続し相場は77.17ドルへ続伸しました。また、投機筋がショートカバーを強めたとの見方もあった。外国為替市場では、対ユーロでドルが下落。ドル建てで取引される商品の割安感につながり、原油相場を支えました。

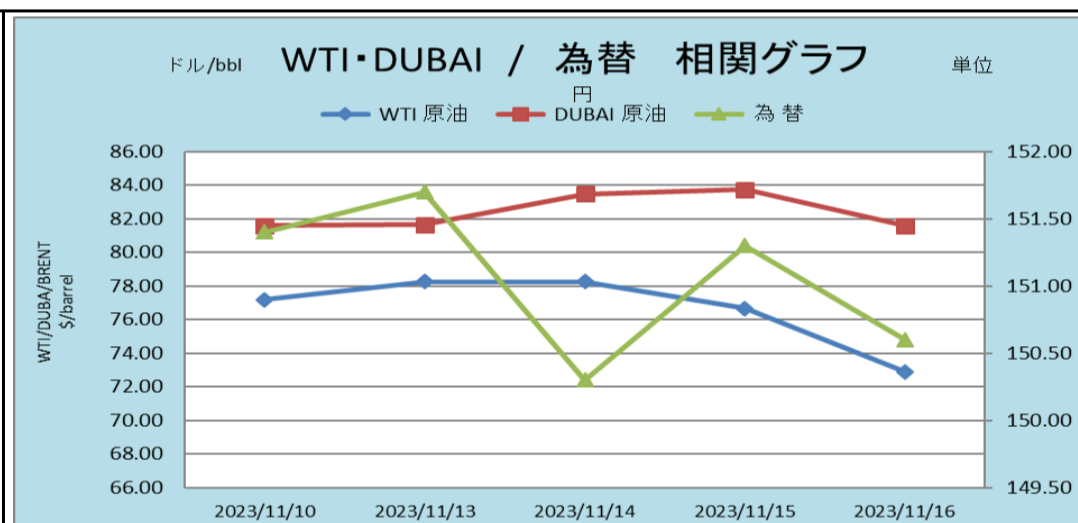
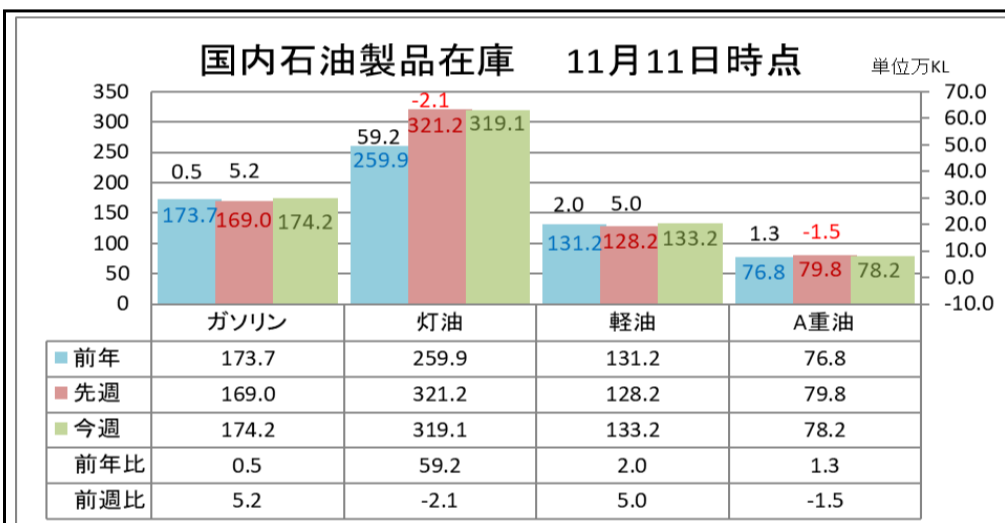
●13日、OPECが13日公表した月報によると、2023年の世界の石油需要見通しは日量250万バレル増と、前月予想から小幅上方修正された。24年の伸び予想は同220万バレル増に据え置き。OPECは石油市場のファンダメンタルズ(需給要因)が引き続き堅調との見方を示した上で、最近の原油価格の下落は金融市場の投機的な取引が波及したことと分析。OPEC月報の内容が米国と中国の需要減速懸念を打ち消す格好となり、相場は78.26ドルへ続伸しました。

●14日、石油需要の先行きに対する楽観的な見方が台頭し、いったん買いが優勢となった。朝方発表された10月の米消費者物価指数(CPI)が市場予想を下回ったことを受け、対ユーロでドルが下落。ドル建てで取引される商品の割安感が生じたことも原油買いを促した。ただ、システム更新のため2週間分発表されるEIAの在庫統計発表を15日午前に控えてポジション調整の売りが徐々に優勢となり、相場は78.26ドルの横ばいになりました。

●15日、米商務省が朝方発表した10月の小売売上高は7カ月ぶりに減少し、消費支出の鈍化傾向を示唆する内容。また、アジアでは、日本の7-9月期国内総生産(GDP)速報値が3四半期ぶりにマイナス成長となったほか、中国の製油所稼働率が低下しているとも伝わる中で、需要先細り懸念から売りが先行し相場は76.66ドルへ下落しました。

●16日、米エネルギー情報局(EIA)が前日に発表した週間在庫統計では、原油在庫が前週比360万バレル増と、市場予想(ロイター通信調べ)の180万バレル増の2倍となる積み増し幅となった。米原油生産が過去最高水準を維持していることが明らかになったことも重なり、供給がだぶつくとの見方が広がった。また、中国の10月の石油精製施設における処理量が減少していることを背景に同国の需要先行きに不安も広がり相場は72.9ドルへ大幅に続落しました。

11月17日 | 16:00現在 | WTI原油 | 73.00ドル | 為替 1ドル | 151.76円



次回元売変動予測

| | 11/23~ | 元売変動予測 |
|------|--------|-----------|
| ガソリン | → | +1.6~+2.1 |
| 灯油 | → | +1.6~+2.1 |
| 軽油 | → | +1.6~+2.1 |
| A重油 | → | +1.6~+2.1 |
| LSA | → | +1.6~+2.1 |

【製品卸価格】

《今週》今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは「-4.0円」、補助金は、「-25.1円・60%」、都合「+0.6円」の値上げ改定となりました。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの13日時点の小売価格平均は173.5円となっております。

《11月18日以降》次回の元売り改定は、原油コストは「-1.5円~-1.0円」、激変緩和補助金は「-22.0円・60%」の見込みで、都合「+1.6~+2.1円」の改定の予測となっています。

※原油コスト「-1.0円~-1.5円」
 ※激変緩和補助金「-22.0円」 前週比+3.1円
 ※現時点での予測です。

【次世代エネルギー】<三菱重工 米国で加速「水素シフト」 米政府が5億ドル支援の巨大事業>

アメリカでは、政府が巨額の補助金を出して、環境に優しい水素の利用拡大を押し進めていて、バイデン政権は、水素の普及など気候変動対策におよそ55兆円もの予算を充てて世界をリードしようとしています。三菱重工は水素を使うガスタービンの開発など技術力でリードしていて、アメリカにチャンスがあるとみて、ビジネスを広げています。

水素ベンチャー企業「モノリス」は、アメリカ中西部・ネブラスカ州のトウモロコシ畑の広がる地域に最先端の水素製造施設があります。この施設では、天然ガスを分解して水素を製造し、利用価値の高い固体炭素「カーボンブラック」を取り出します。水素の製造過程で二酸化炭素を出さない画期的な技術です。最先端の技術に日本の三菱重工など世界中から出資が殺到。アメリカ政府は10億ドルの融資保証を決めました。

三菱重工が参画している水素プロジェクトの現場が、西部・ユタ州で世界最大規模の水素の貯蔵施設です。岩塩の地層に巨大な空洞を作り、約7万世帯の1年分の電力消費を賅える量を貯蔵する巨大事業で、米政府が約5億ドル支援している。

官民を挙げて、「水素大国」に猛スピードで進むアメリカ。日本は企業の技術ではリードしていますが、水素の利用拡大に向けては政府の一段踏み込んだ支援も求められています。